



上里町

赤十字奉仕団だより

第11号
令和7年2月28日

上里町赤十字奉仕団
委員長 林 静子

赤十字奉仕団員の信条

- 一、 すべての人びとのしあわせをねがい、陰の力となって人びとに奉仕する。
- 一、 常にくふうして人びとのために、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、 身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。

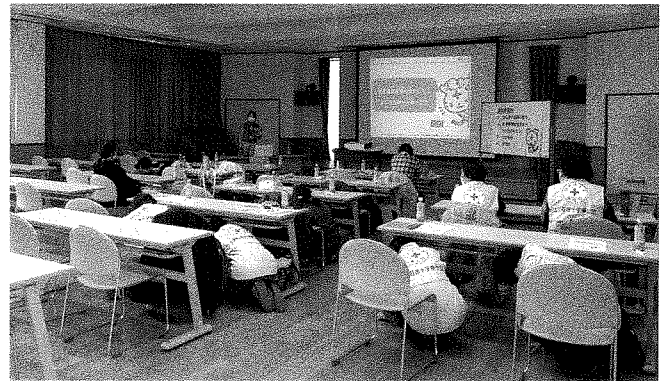
お家の備え、あなたはできていますか？

去る2月1日、小学生を対象とした赤十字防災セミナー『おうちのキケン』を開催し、9名の児童が受講してくださいました。これは、日本赤十字社埼玉県支部が考案した新しいカリキュラム（令和6年度から本格導入）で、同支部から派遣された講師のもと、一般向けには『KAG（家具安全対策ゲーム）』として、最も身近にある“お家の中のキケン”を把握し、地震発生時に、自分や家族を守るためにどのような対策が必要かを、ゲーム形式で学ぶものです。

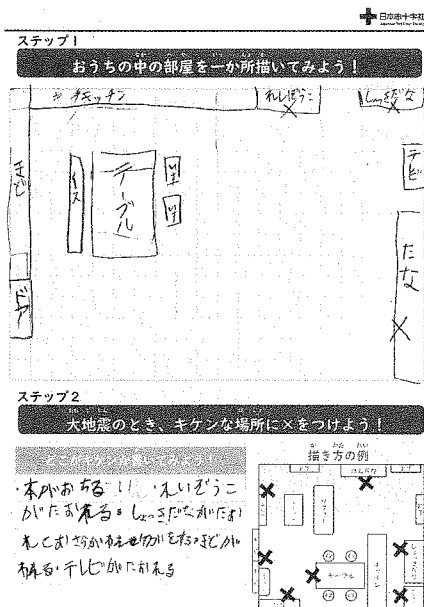
折しも、令和7年1月17日で阪神・淡路大震災から30年が経ち、テレビ番組の特集で映し出された当時の映像からは、その被害の大きさに改めて驚かされ、同時に、地震による家屋の倒壊、倒れた家具等の下敷きになって亡くなった方が多くあったことを思うと、決して他人事ではなく、いつ我が身に起こってもおかしくないのだと考えさせられました。

今回のセミナーでは、そんな“いつ起こってもおかしくない”地震への心構えを、ワークシートに沿って学んでいきます。受講対象は、小学5年生～小学6年生でしたが、下は小学2年生から、上は80代の赤十字奉仕団員まで、全員が真剣に講師の話に耳を傾けていました。そして、ワークシートに取り組む姿勢、恥ずかしがりながらも自分の考えを発表する児童の姿には頼もしささえ感じられました。

児童からの質問・感想にもありましたが、「どんなキケンなのか、イメージわからない」。これは、お家という身近な場所が、私たちにとって“安心な場所”であるが故の言葉だと思うのです。お家という安心な場所を、本当の意味で“安全で、安心できる場”とするために、皆さんも日頃から考え、いざという時に備えていただけたら幸いです。



上)セミナーの導入場面で、緊急地震速報(模擬警報)を鳴らし、自分の考えた避難行動を実践してみるという場面がありました。この時の、参加児童の素早い避難行動には目を見張るものがありました！



左)実際に児童が記入したワークシート。

自分の家の間取りを書きながら、「倒れてキケン」「落ちてキケン」「動いてキケン」「割れてキケン」という視点で、お家の中のキケンを探していきます。

活動報告

この他にも、小学校の総合学習への協力（令和6年6月・上里東小学校）、視察研修（令和6年11月・埼玉県防災学習センターそな一え）、町内の清掃活動（神保原駅周辺・丹生神社）などを実施しました！



街頭募金

令和6年5月に、町内店舗と上里サービスエリア(上り)にて、『令和6年能登半島地震義援金』にかかる募金活動を実施しました。

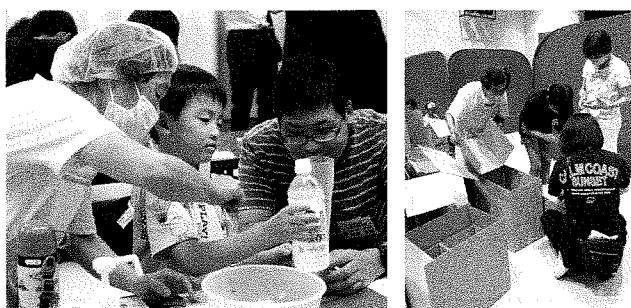


炊き出し訓練

令和6年8月に開催された『上里町防災フェスティバル』に協力。炊き出し訓練を実施し、計195食のハイゼックス米を、非常食(レトルトカレー)と共に配布しました。



また、昨年に続き『親子で学ぶ1泊2日避難所体験 防災体験合宿』では、ダンボールベッドの組み立てや炊き出し準備を、参加した児童・保護者と共に行いました。



日赤短期講習会

令和6年10月に日本赤十字社埼玉県支部より講師を招き、『災害時高齢者生活支援講習』を受講。避難時に、特に高齢者が陥りやすい心身の状態について学び、リラクゼーションの方法やホットタオルの作り方などを体験しました。



受賞おめでとうございます

地域奉仕団員等金枠感謝状

土屋清子（七本木分団）

松本初美（七本木分団）

五十嵐裕美（七本木分団）

地域奉仕団員等銀枠感謝状

岩淵公子（七本木分団）

（敬称略・順不同・カッコは所属分団名）



団員募集

赤十字奉仕団は、日本赤十字事業を支えながら活動をしているボランティア団体です。

現在、一緒に活動して下さる団員を募集しています。
老若男女問いません！

「できる時にできる事を」が私たちのモットーです ♪

連絡先▶上里町社会福祉協議会(日赤事務局) ☎33-4232

赤十字の活動資金にご協力をお願いします

日本赤十字社の活動は、皆さまから寄せられる会費や寄付金によって支えられています。

